

臨時休業期間等における在宅児童・生徒のICTを活用した学習支援について

1 事業の目的

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を受けた緊急事態宣言による区立学校の臨時休業期間中においても、児童・生徒が目的をもって生活し、学習に取り組んでいけるようにICT機器を活用した教育環境を整備する。このことにより、児童・生徒や保護者の不安を解消し、児童・生徒の家庭での規則的な生活や家庭学習の充実を図る。

2 ICTの環境整備の内容

- (1) 家庭でのICT環境が整っていない児童・生徒の世帯に対して、モバイルルーター、タブレット端末を貸与する。
- (2) 児童・生徒及びその保護者と教員に対して、ICT機器の設定や操作等の支援を行うICT学習支援員を会計年度任用職員として採用し、各小・中学校に1人配置する。

3 学習支援の内容

- (1) 担任等の教員が毎朝ホームルームを行い、児童・生徒とコミュニケーションをとることにより、児童・生徒に目的をもたせ、規則正しい1日を過ごせるよう支援する。
- (2) 学校は、児童・生徒に時間割を示し、学校が作成した動画等の学習コンテンツを活用しながら、計画的に家庭学習を支援する。

4 臨時休業期間の活用例

段 階	ステップ1		ステップ2
活用場面	状況確認や相談場面	学習コンテンツ等を用いた学習場面	学習コンテンツの共有
内 容	○担任等の教員によるホームルームの実施 ○教育相談の実施	○動画による指導や学習課題の配布・回収 ○質問対応	○教員が作成した学習コンテンツの共有・活用

5 学校再開後の活用例




- 授業等における対話的な学習場面での活用
- 家庭学習・放課後補充学習教室での活用
- 不登校児童・生徒への支援
- 外国人児童・生徒への支援

※ 活用例は、別紙「在宅児童・生徒へのICTを活用した学習支援」参照





別紙「在宅児童・生徒へのICTを活用した学習支援」

ねらい	小中学校の臨時休業期間等において、ICT機器やインターネットの活用により、学校との連絡や家庭学習を円滑に行うことができる環境を整備することで、児童・生徒の規則的な生活や家庭学習を支援する。
目指す姿	○担任等の教員が毎朝ホームルームを行い、児童・生徒とコミュニケーションをとることにより、児童・生徒が目的をもち、安心して規則正しい1日を過ごせるようになっている。 ○児童・生徒は、学校が示した時間割を基に、学習コンテンツ等を活用しながら、計画的に学習を進めている。

臨時休業期間の活用例 ※ ICT機器は中学校第3学年から順次、学年を下げ導入する。

	ステップ1		ステップ2
	状況確認や相談場面	学習コンテンツ等を用いた学習場面	学習コンテンツの共有
活用場面	 <p>決められた時間にインターネットに接続し、ホームルームに参加します。担任は、1人ひとりの児童・生徒の生活・学習状況確認をします。また、児童・生徒に困ったことがあれば養護教諭、カウンセラーにつなげることもできます。</p>	 <p>週ごとに示された時間割にしたがって、学習課題やリンクされた学習コンテンツを活用しながら、各家庭で学習を進めていきます。児童・生徒一人ひとりの質問などにも対応します。</p>	 <p>教員は、それぞれが作成した動画やパワーポイント等の学習コンテンツを区内の共有フォルダやクラウド内に保存することで、区内の教員がステップ1に戻り自身の授業に活用することができます。</p>
使用ソフト等	グーグルハンガアウト、グーグルクラスルーム	YouTube、グーグルクラスルーム	クラウド

学校再開後の活用例 ※ 学校再開後、新型コロナウイルス感染症への配慮から登校しない児童・生徒への学習支援も継続して行う。

	授業等における対話的な学習場面での活用	家庭学習・放課後補充学習教室での活用	不登校の児童・生徒への支援	外国人児童・生徒への支援
活用場面	 <p>自分の考えを述べたり、友達の考えを聞いたりしながら、対話的に学びを深めていきます。</p>	 <p>家庭や放課後学習教室で、自分に合った課題をどんどん進めていきます。塾に行けない家庭も学習コンテンツを利用できます。</p>	 <p>不登校の児童・生徒が自宅に居ながら、学校の指示する学習課題を進めたり、学校の授業を受けたりすることができます。</p>	 <p>外国人児童・生徒が翻訳機能や日本語学習のコンテンツを活用して、日本語の学習や教科等の学習を進めることができます。</p>